



第 1637 回例会

平成 22 年 11 月 15 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」

3. 出席報告

会員総数 68 名 出席者数 45 名
出席率 66.18% 前回修正出席率 73.53%

4. 会長スピーチ

みなさん、今日は。

本日は吉田さんの会員卓話です。この後よろしくお願ひします。

今日は 11 月 15 日、七五三の目で お忙しいところ宮司さんにお話をきけるやっぱり RC です。

先日の地区大会のおりに元 RI 理事で現在 RLI の日本の責任者をしておられる南薦義一さんが来られており、山口県防府 RC の所属と言うことでしたので、2007 年に甲子園で御宅のチームと試合をしたといって名刺を交換にいってきました。

色々な会合にご夫婦でいかれるので、名刺も夫婦の名前がつらねて書いてありました。

ある新聞に銀座のクラブのベテランママさんが「殿方はみんな子供」といったと書いておられました。

泉佐野のゲートタワーから堺の地区大会の会場までの送迎バスの 1/3 は米田ガバナーと同期のガバナーゴ夫婦に席を陣取られました。

私は一人だったのでその人々の話を聞きながらの 45 分のバスの旅でしたがまさしく奥様主導で女性は強いなあとニヤニヤしながらの時間でした。

でも、一応バスに乗り込むのも、席に座るのも男性(ガバナー)が先で日本で国際協議会でアメリカへいってレディーファーストを勉強して来たはずですが。そこらあたりが「子供」と言われる所以かも、

我々も、ゴルフでパットがはいったり、良いショッ

会長 谷脇 良樹君



トをしたりして騒ぐ時は、子供に戻って入るが如きかな。

当クラブも久しぶりに夫婦での IDM を計画しておりますし、1 月には恒例の新春夫婦例会が控えています。みなさん、奥様あってのたまものですので、よろしくお伝えねがって多くの奥様方のご参加をお願いしておきます。

5. 幹事報告

幹事 上野山 雅也君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山城南 R C

11 月 25 日 (木) → 11 月 25 日 (木) 18:30~
あおい茶寮 (会員忘年例会)

6. 委員会報告

○社会奉仕委員会

海響祭の開催の件

委員長 岩井 克次君

○情報委員会

IDM 開催の件

委員長 深谷 政男君

7. 会員卓話

「世界遺産と藤白」

吉田 昌生君

昨今は空前の坂本龍馬ブームでありますが、今日 11 月 15 日は奇しくも彼の誕生日であり、また、暗殺された日でもあります。

日本の未来を考え、明治維新への道を開いた功績は多大であると思いますが、戦いなくして新しい世を築いていくという彼の意に反して、明治政府は日清、日露戦争へと進み、列強に伍していくために、日本の歴史、伝統をも破壊するという暴挙に出ました。

それは明治 40 年代、「神社合祀令」によってたとえば熊野九十九王子社などの小祠は廃絶となり、鎮守の森は売却し伐採される羽目になりました。中辺路の近露王子や湯川王子には、このときの巨木の切り株が今も残っています。県指定天然記念物の野中の一方杉蛾、唯一健在なのは、和歌山の生んだ偉人、南方熊楠による猛烈な反対運動のたまものであります。エコロジー



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：谷脇 良樹 幹事：上野山 雅也 S A A : 三木 正博

という自然保護運動の魁となった翁の功績はいまの時代にあってその偉大さを顕彰せんにはいられません。とはいってこの神仏分離令により、和歌山県は三重県に次いでひどく、明治44年までに3713社のうち、実に2913社が滅却されたといいます（全国では明治39年に19万からわずか3年の間に4万5千に減少した）。そればかりか廃仏毀釈により、多くの寺院建築や仏像など貴重な文化財が消失しました。

幸い藤白神社の本地仏は廃仏毀釈を免れ、皆様方のおかげをもちまして、藤白王子権現本堂も再建され、神仏靈場として選ばれるなど、往時の熊野詣の賑わいをとりもどしつつあります。

そして、世界遺産「紀伊山地の靈場と参詣道」の追加登録を見据えて、今、「熊野古道藤白坂・藤白王子権現・鈴木屋敷と庭園」を3点セットとして文化庁の史跡「歴史の道」に指定を受けるべく、海南市教育委員会から「整備報告書」を提出、指定待ちの状態です。この計画の早期実現のために皆様方のご理解と、ご支援を衷心よりお願い申し上げます。

最後にロータリークラブとしても「世界遺産の森」をつくるなどいたしましたが、和歌山でも熊やイノシシなどの被害が問題となっており、自然災害や水源地の確保、温暖化を防ぐためなど「森の再生」が叫ばれています。この点に関しても一度専門家の話を聞く機会をもっていただきたいと思います。

8. 閉会点鐘

次回例会

第1638回例会 平成22年11月29日(月)

海南商工会議所 4F 12:30~

ゲスト卓話・マリーナ支配人さん



ロータリー財団月間

The Rotary Foundation Month



ニコニコ・BOX

山畠 弥生君

WCSのTV等、沢山集まりました。感謝。

吉田 昌生君

卓話させて頂きます。

深谷 政男君

台北で柳生さんにお世話になりました。

中村 雅行君

タクシー創業50周年になりました。

上南 雅延君

たんぽぽの会がご無理なお願いをしました。

岸 友子君

11月5日に初孫が生まれました。男の子は初めてで、かわいいです。



国際ロータリー ニュース

カメラを通して世界を映す元平和フェロー

2002-04年度のロータリー平和フェローとしてカリフォルニア大学バークレー校に留学したマイケル・ハノールトさんは、開発と平和構築にかかわる自身の仕事において、写真が大きな役割を果たすと感じています。ハノールトさんは、この10年間、カナダ国際開発局のアフガニスタン支局に勤務するかたわら、バングラデシュ、ボリビア、ハイチ、ウクライナ、ヨルダン川西岸地域で、独立したオブザーバーとして選挙の監視に携わってきました。

雑誌、開発機構、美術館といった方面で写真家として活躍するハノールトさんは、カナダ、フランス、ドイツで、数回の写真賞を受賞し、2010年、ケベック芸術協議会の助成金を受け、ウェールズのアベリストウィス・アート・センターの芸術村で活動するアーティストとなりました。



ハノールトさんは、グレートブリテンおよびアイルランドの国際ロータリー(RIBI)の4月の大会で行われた競売のために、3点の作品を寄贈しました。この競売は、ビル・ハントレー元RI会長の名を冠したロータリー平和フェローシップ基金のための募金活動の一環として行われました。

平和フェローシップは、「平和の活動家のための強力なコミュニティーを新たに生み出すもの」であるとハノールトさんは話します。「このコミュニティーがあつたからこそ、大きな影響を与えるプロの写真家として仕事を続けることができ、心理的に過酷な仕事をこなす上で必要な、心の面でのスタミナも養うことができました。そこには、共に労苦を分かち合い、個人的な悩みも理解し合える仲間がいるのです」。